**説教20230910ローマ12：9-21マタイ18：15-20「心を一つにして求めるなら」**

**私たちが「心を一つにして求めるなら」どんな願い事も、天の父がかなえて下さる、とイエス様は言われました。なんと祝福に満ちた、聞くだけで心躍る御言葉なのでしょう。御言葉は真実ですから、その通りなのですが、同時に、「私の名によって集まっているところには」、イエス様の名によって集まっているところには、と言う条件もそこに語られています。つまり、イエス様のいないところ、イエス様をないがしろにするところに集まっても、私たちの願い事がかなえられることはないとイエス様は言われているのです。当たり前のことではありますが、私たちはこのことを覚えつつ今日の御言葉に聞いて参りましょう。**

**今日のマタイ福音書の冒頭、１８章１５節**

**「兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで忠告しなさい。言うことを聞き入れたら、兄弟を得たことになる。**

**という様にイエス様は話始められます。**

**これから始まる御言葉は、解き明かしが難しい、とある註解書には書かれていました。つまりイエス様は何をおっしゃりたいのかはっきりしないということです。確かにそうであります。私は、このイエス様の御言葉は、いわゆるなぞかけではないかと思います。なぞかけと言うのは、わざと相手に考えさせることを言っておいた上で、最後に、解答を明らかにして、新しい理解を与えるという話術です。ではイエス様の解答を楽しみにしながらこのなぞかけに聞いて参りましょう。**

**「兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで忠告しなさい。」イエス様は私たちにこの様に言われますが、この御言葉は受け取り方によっては、危険と混乱を招くものでしょう。先ず、私たち人間は皆、罪人でありますので、私たちはここで罪を犯した側にもなるし、罪を犯された側にもなるということです。しかし、わたしたちは、この御言葉を聞いたとき、はなから、罪を犯したのは相手であり、罪を犯されたのは自分であると決めて、この御言葉を聞くのではないでしょうか。**

**先ずは、心を鎮めて、私たちが互いに罪を犯し合う存在であることを認めつつ、謙虚にこの御言葉を聞く必要があります。**

**「言うことを聞き入れたら、兄弟を得たことになる。」相手がいうことを聞き入れた場合、兄弟を得たことになり、二人は、心ひとつにされて、祝福されるということです。この様な成り行きであればよいですが、いつもこのようにうまく行くとは限りません。**

**「聞き入れなければ、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。すべてのことが、二人または三人の証人の口によって確定されるようになるためである。それでも聞き入れなければ、教会に申し出なさい。」相手が聞き入れない場合は、この様に、だんだんと雲行きが確実に怪しくなり、なんだか、危険と混乱が大きくなり、その範囲は、二人、三人、そして教会全体にまで広がっていくのです。イエス様がここで「教会に申し出なさい。」と言われているのも、あまり具体的ではなくて、「教会に申し出なさい」とは具体的にはどういうことなのですかと問い返したくなります。そして、この「教会に申し出る」ということを、人間的に誤った形で行ってしまいますと、教会の雰囲気は悪化し、ひいては教会が分裂するという恐れも抱かされます。かえって私たちの罪が大きくなってしまうということも予想されます。**

**イエス様は一体この御言葉で、私たちに何を言われたいのでしょうか。それは次に書いてあります、落ちの言葉、即ち、その心は、と言って語られる次の御言葉を聞けば明らかになるでしょう。その御言葉というのは「教会の言うことも聞き入れないなら、その人を異邦人か徴税人と同様に見なしなさい」という言葉です。イエス様が、罪多き異邦人や徴税人たちをことのほか愛されたのは有名な話であります。そして「わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」と言われて、罪深き人こそ、その一人ひとりの名を呼んで、教会へと招き入れるお方であります。ここでイエスさまの心が明らかにされましたが、イエス様はこのなぞ解きを、教会を分裂させ、罪ある人を教会から追い出すためにされたのではなくて、反対に、罪人である人間を全て、教会へと招き入れるために、語られたのであります。しかし、私たち人間が、イエス様から離れて、このなぞかけ話を誤解してしまったら、私たちはいとも簡単に危険と混乱に巻き込まれ、教会は分裂し、罪によって人を教会から追い出すようなことをしてしまう、大変悲惨な状況を招いてしまうということは想像にかたくないでしょう。**

**これくらい、私たち人間がイエスさまと共にいる、ということと、共にいないということは大違いなのです。私たち人間は、罪深い現実を前にして、心が固くなり、恐れと不安に取りつかれ、かえって罪の虜となって、相手を断罪し始める者たちです。そこでは意味のない裁きあいが行われてしまいます。**

**しかし、イエス様が共に居られる時には、そうではありません。そこではイエス様の慈しみと憐みが、私たち人間を飲み込んで、罪によって裁き合うことから解放してくださるからです。**

**そうして、イエス様の慈しみと憐みは、私たちを罪の赦しへと向かわせるのです。**

**ヤコブ書に次の様に書いてあります。「人に憐れみをかけない者には、憐れみのない裁きが下されます。憐れみは裁きに打ち勝つのです。」**

**今日のローマ書には、私たちがイエス様と共にいる時に、行うことが出来る生活と暮らしが具体的に記されています。12章15節から**

**喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。互いに思いを一つにし、高ぶらず、身分の低い人々と交わりなさい。自分を賢い者とうぬぼれてはなりません。**

**だれに対しても悪に悪を返さず、すべての人の前で善を行うように心がけなさい。**

**できれば、せめてあなたがたは、すべての人と平和に暮らしなさい。**

**この御言葉は、2000年前から変わらず、私たち人間に聞かれ、そうしてこれからもずっと、最後まで聞かれ続けるイエスさまの御言葉であります。それは、なんという良き知らせでありましょう。**

**世の中や国家のスローガンは、１００年もしたら、変化し、廃れもするでしょう。しかし、イエス様の御言葉はとこしえに変わることがないのです。私たちは御言葉に信頼すれば、前の世代の人たちともそして次の世代の人たちとも一つとなってつながっていくことが出来ます。**

**先週、韓国の国民的詩人、尹東柱（ユ ンドンジュ）の生涯と信仰を紹介するセミナーを、教会の集会室で開きまして、多くの市民の方々にキリストの福音を語ることが出来て、うれしく思いました。彼は、1944年に福岡刑務所に収監されて、そこで虐待を受けて、天に召されました。非業の死を遂げたかに見えるドンジュは、信仰によって、天の国へと挙げられ、朽ちない命に生きる者とされました。**

**戦時中の福岡刑務所での韓国人に対するこの虐待は、国家によって正当化されたことでしょう。このように移ろいやすい国家の価値観やスローガンによって、人間の罪はいや増してしまうのです。**

**それから戦争は終わり、新しい時代がやってきました。**

**みなさん、戦後に、社交ダンスがはやって、別府にもあちこちにダンスホールが出来たことを御存じでしょうか。不老泉の2階には、スターダンスホールがありました。北浜には立花ダンスホール、流川通りにはビリケンがありました。ダンスホールには、何かお金はなくても、人が集まって楽しむことが出来る昔の良さを感じます。この教会から目と鼻の先にある不老泉の二階に、人々が集まって、社交ダンスに興じていた様子を想像するだに、心楽しくなります。**

**さて、この様に私たちがこの地上で目の当たりにする、人間模様や社会のありさまは、刻々と変化していきます。刑務所の中で平然と虐待が行われる戦時中は、暗い時代で、戦争が終わって、人々が社交ダンスを楽しめるような明るい時代がやってきたのだと、私たち人間はその変化を見定めることでしょう。**

**しかし、イエス様の眼差しは、一貫しています。変わることがありません。それは牢屋の中でもダンスホールの中でも変わりがありません。**

**使徒言行録によりますと、パウロたちはイエス様の名によって、心を一つにして、牢屋に入れられている囚人たちの為にとりなし祈っていました。すると突然大地震が起き、たちまち牢屋の戸が皆開いて、囚人たちは牢の外へと解放されたのでした。この出来事は、私たちが何処に在っても、常にイエス様と共に居て、心を一つにして祈る時に、私たちの罪の鎖が解きほどかれるのだという、神の御業を象徴的に語っています。**

**同様に、私たちはダンスホールという華やかで、楽しげなところに集まっても、そこにイエス様が共にいないと、その楽しみはいつしか終わりを告げる空しいことへと変化していく事でしょう。**

**牢屋の中にも、ダンスホールの中にも、イエス様は常に、共に居られるお方です。しかし多くの人たちはその真実に気が付いていません。或いはルカ福音書のたとえ話の放蕩息子のように、イエス様から離れて自由に振舞いたいと思って、イエス様のことを見ようとしない人もおられるかも知れません。**

**時代を超えて、場所を超えて、いつも私たち人間のそばに居られるイエス様の御言葉は、変わることがありません。ローマの信徒への手紙 12章 9節から**

**愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善から離れず、**

**兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。**

**自分に対して罪を犯した兄弟に対して、私たちはどのような忠告をするでしょうか。イエス様のお答えは、簡単です。その罪人を教会へ招きなさい、ということであります。**

**私たちは、イエス様の十字架によって、自分の罪が赦され、永遠の命が与えられるということをよく知らないと、隣人を裁いてしまいます。**

**そして、この世の移ろいやすい喜びや悲しみに身を委ねてしまいますと、私たちは自分の感情の浮き沈みに酔うだけで、喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣くことが出来なくなってしまいます。**

**イエス様は、どんな時も、悪が善に変えられることを望み、実際そのように行われるお方です。私たちがそのイエス様といつも共にいて、心を一つにして、その良い行いを共に行う者となる事が出来ますようにお祈りします。**

**祈り**

**あなたは、私が牢屋にいる時も、又、この世で踊り楽しんでいる時も、変わらず、私の慰め主でおられます。どうか、私たちを、この世の苦難、この世の悦楽からお救い下さい。あなたによってまことの癒しと慈しみが与えられることを知り、あなたと益々一つとされて、この世の旅路を歩んで行くことが出来ますよう、導いて下さい**

**モロッコで大地震が起き、亡くなられ、傷を負い、悲しみの中にいる方々を覚えます。どうか主よ、この方々に癒しと慰めをお与えください。この試練の中に、あなたの希望を見出して、前を向いて歩み始められますよう、励まし導いて下さい。**

**打ち続く災害や、戦争、争いによって、この世で打ちひしがれている私たちを憐み、お救い下さい。将来の不安を抱えつつ、日々の生活、仕事を続けているお一人お一人を励まして下さい。あなたの御言葉によって、歩むべき方向を見定め、信仰、希望、愛を増し加えて下さい。**

**この世にあって罪人である私たちが教会へと招かれ、あなたの慈しみと憐みに抱かれ喜ぶ人を、また一人増し加えて下さいますように。御子イエスと共にあって、私たちが心を一つにして、主の平和と、永遠の命を、祈り求めていく事が出来ますように。**